

環境経営レポート

レポート対象期間

2023年度(2023年4月～2024年3月)

凡事徹底

「なんでもない当たり前のことを徹底的に行うこと」



私達は宇都宮ブレックスを
応援しています。



発行日 2024年7月17日

株式会社 UACJアルミセンター宇都宮カラーアルミ工場

目次

- 1.組織の概要
- 2.認証登録範囲
- 3.環境経営方針
- 4.環境目標
- 5.環境活動計画
- 6.環境活動計画の取組結果とその評価
- 7.次年度取組内容
- 8.環境関連法規等の遵守状況並びに違反、
訴訟等の有無
- 9.代表者による全体評価と見直し結果

1.組織の概要

- 1-1会社名及び代表者名
 - ・会社名 株式会社UACJアルミセンター
 - ・代表者名 代表取締役社長 高橋 明
- 1-2本社所在地
 - ・東京都港区浜松町1-10-17
- 1-3事業所名
 - 1)本社・東日本営業部 東京都港区浜松町1-10-17
 - 2)西日本営業部 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-6
 - 3)宇都宮カラーアルミ工場 栃木県宇都宮市平出工業団地20-2
 - 4)深谷工場 埼玉県深谷市上野台1351番地
 - 5)滋賀工場 滋賀県彦根市高宮町2810番地
 - 6)奈良工場 奈良県磯城郡川西町結崎1610-2
- 1-4対象事業所及び事業活動
 - ・事業所名 宇都宮カラーアルミ工場
 - ・代表者名 工場長 前園利樹
 - ・所在地 栃木県宇都宮市平出工業団地20-2
 - ・事業活動 自動車関連、電機・機械関連、建築資材
関連、カラーアルミ製造・加工
 - ・環境管理責任者 環境グループ長 青木 朗
TEL028-661-6916
 - ・事業規模
 - 1)操業開始 1973年
 - 2)売上額 1759百万円(2023年4月～2024年3月)
 - 3)資本金 95百万円
 - 4)現従業員数 60名(2024/3末)
 - 5)敷地面積 24,200㎡
- 1-5認証対象範囲
 - ・今回の認証登録は「サイト認証」です。
 - ・対象事業所:株式会社UACJアルミセンター宇都宮カラーアルミ工場
 - ・対象事業活動:自動車関連、電気・機械関連、建築資材関連カラーアルミ
製造・加工

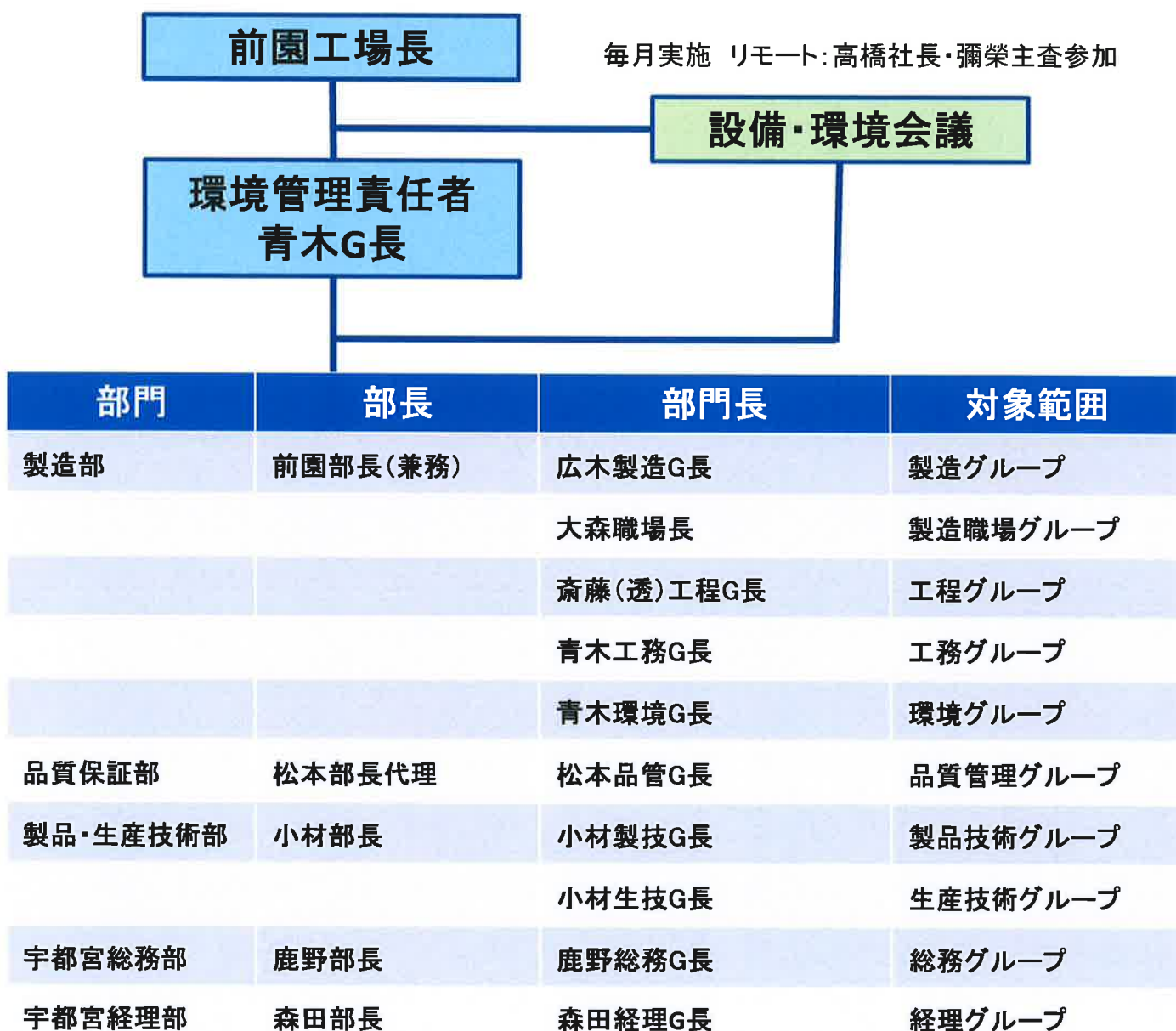
2.認証登録範囲

2-1 組織:株式会社UACJアルミセンター 宇都宮カラーアルミ工場

2-2 活動:自動車関連、電機・機械関連、建設資材関連
カラーアルミ製造・加工

2-3-1 宇都宮カラーアルミ工場活動組織

環境管理組織及び責任と権限



2-3-2 責任と権限

環境管理システム運用上の重要な責任と権限は、以下である。

1) 工場長 環境管理システムを統括する。

- ① 環境方針を定める。
- ② 環境管理システムの実施に必要な要員、技能、技術及び、資金を手当てする。
- ③ 環境管理責任者を任命する。
- ④ 環境管理システムを定期的に直しする。

2) 環境管理責任者

- ① エコアクション21の要求事項に適合した、環境管理システムが確立、実施、維持される事を確実にする。
- ② 見直し及び、環境管理システムの改善の基礎として、工場長へ、環境管理システムの実績を報告する。
尚、環境管理責任者は上記①及び、②の役割、責任及び、権限を、他の責任者に関わりなく与えられる。
- ③ 環境側面調査、環境影響評価を総括する。

3) 各部門長

- ① 自部署の環境管理システムの運用を行い、必要な手順書の制定、改廃及び、維持を行う。
- ② 自部署の環境目標を達成する為のテーマを設定し、環境管理計画を推進する。

3.環境経営方針

(株)UACJアルミセンター宇都宮カラーアルミ工場 環境経営方針

株式会社UACJアルミセンター宇都宮カラーアルミ工場は、緑豊かな青い地球に感謝し、資源・エネルギーの節約と環境汚染防止を配慮した事業活動を行う。

1. 当工場の製品が、生産及び市場への提供の過程において、資源、化学物質、環境関連物質及びエネルギー等を使用することによる環境影響を常に認識し、汚染の予防に努めると共に環境経営システムの継続的改善を図る。
2. 当工場の活動、製品、サービスに係わる環境法規制、条例及び当工場が同意したその他の要求事項を遵守する。
3. 当工場の活動、製品、サービスに係わる環境影響のうち、以下の項目を環境経営目標として、改善に取り組む。
 - (1) 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。
 - (2) 環境負荷の量を把握し、法規制値の遵守、適正な管理とその削減に努める。
(二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、工場排水、化学物質使用量)
 - (3) エネルギー消費量の削減を図る。
 - (4) 製品開発アセスメントの推進を図り、環境に配慮した製品の提供に努める。
 - (5) 省エネ製品の開発と拡販。
 - (6) 水管理の推進を図る
4. この環境方針達成のため、環境目的・目標を設定し、定期的に見直しを行い、当工場内の関連会社を含む全従業員を挙げて環境管理を推進する。
5. この方針を当工場内の関連会社を含む全従業員に周知させると共に、教育によって地球環境管理保全に関する意識の向上を図る。
6. UACJ本社の環境点検フォロー、UACJグループCSRに記載、生物多様性改善に協賛することにより、環境パフォーマンスを改善する。

制定:2017年 6月23日

改訂:2024年 4月 1日

株式会社UACJアルミセンター
宇都宮カラーアルミ工場

工場長 前園 利樹

4.環境目標・目的

*1のエネルギー使用量のℓはエネルギー使用量の熱量を原油換算した値です。

管理 No.	環境目標・目的		環境改善活動計画 目標値			
			2022年度 実績	2023年度 目標	2024年度 目標	2025年度 目標
1	環境重大事故の撲滅	環境重大事故1件以下	0件/年	0件/年	0件/年	0件/年
2	省エネルギー対策 の推進 2023年度目標は UACJ中長期計画設定 2019年度をベース	①二酸化炭素排出量 原単位削減	①784kg/t	①641kg/t	①635kg/t	①629kg/t
		②二酸化炭素総排出量削減 購入電力排出係数 0.5(tCO ² /千kwh (2019年度比20%削減)	②6315 tco ²	②5052 tco ²	②5001 tco ²	②4951 tco ²
		エネルギー使用量原単位削減 (2019年度比20%削減)	397 ℓ/t ^{※1}	327 ℓ/t	324 ℓ/t	318 ℓ/t
3	産業廃棄物の削減	廃棄物処理費用原単位削減 (2022年度実績比1%減)	884 円/t	875 円/t	866円/t	857円/t
		廃棄物排出量原単位削減 (2022実績比1%減)	25.0 kg/t	24.8 kg/t	24.6kg/t	24.4 kg/t
4	化学物質の適正管理	アルサーフ使用量原単位 (2021実績比1%減)	1.33 ℓ/t	1.32 ℓ/t	1.31 ℓ/t	1.30ℓ/t
5	水管理の推進	水道水使用量原単位削減 (2022年度比1%削減)	6.1 m ³ /D	6.0 m ³ /D	5.9 m ³ /D	5.8 m ³ /D
		工業用水使用量原単位削減 (2022年度比1%削減)	2.32 m ³ /t	2.30 m ³ /t	2.28 m ³ /t	2.26 m ³ /t
6	製品開発アセスメント の推進と環境に配慮し ない製品流出事故0件	RoHS物質が製品に含有・ 流出する事故0件	0件/年	0件/年	0件/年	0件/年
7	CSR活動の推進	工業団地内一斉清掃 参加継続	継続	継続	継続	継続
		インターンシップの 受入れ継続	継続	継続	継続	継続

※1. 二酸化炭素排出量原単位＝二酸化炭素排出量／製品化量

※2. 廃棄物排出量原単位＝廃棄物排出量／製品化量

※3. 水道水は操業日数・工業水はPL製品化量で換算

※4. 2023年度目標値は2022年実績値の1%減、尚、2022年度未達の項目については
未達度実績比1%減の目標 2024年度、2025年度は2023年度目標値1%減を目標

※5. 工業団地一斉清掃の参加及び市内高校生のインターンシップ受け入れ。

5.環境活動計画

*1のエネルギー使用量のℓはエネルギー使用量の熱量を原油換算した値です。

管理番号	環境方針	2023年度環境活動計画		
		環境目標	該当部門・施策	
			該当部門	施策 (推進責任者＝部門長)
1	環境重大事故の撲滅	環境トラブル発生0件	環境G	- 環境トラブルを想定した訓練実施 - ニオイセンサーにより定期観測
		近隣住民からの苦情0件		
2	省エネルギー対策の推進 2023年度目標はUACJ中長期計画設定2019年度をベース	①二酸化炭素排出量削減 (目標値 641 kg/t)	工務G	- 脱臭装置更新による都市ガス使用量削減 - 天井照明LED化 - 塗装設備昼休み時ファンモーター停止 - フォークリフト制限速度によるガソリン使用量削減 - 再生エネルギー導入検討
		②二酸化炭素総排出量削減 (目標値 5052 tco2)	工務G	
3	産業廃棄物の削減	エネルギー原単位削減 (目標値 393 ℓ/t)*1	製造部	- プラスチック100%リサイクル化 - 化成廃液量の削減 - 廃棄塗料削減
		産業廃棄物処理費用原単位削減 (目標値 875 円/t)	工程G	
4	化学物質の適正管理	産業廃棄物処理原単位削減 (目標値 24.77 kg/t)	製造部	- 濃度センサー誤動作防止し適正化を図る - 化学物質の受払管理・見直し
		アルサーフ使用量の適正化 (目標値 1.33 ℓ/t)	工務G	
5	水管理の推進	化学物質取扱い管理の徹底	品質保証部	- 節水の呼びかけと表示 - 冷却水をクーリングタワーで冷却し循環使用する - 水道水使用量の把握 - 工業用水使用量の把握
		水道水使用量原単位 (目標値 6.0 m³/D)	総務G	
6	製品開発アセスメントの推進と環境に配慮した製品の提供	工業用水使用量原単位 (目標値 2.30 m³/t)	製造部	- 黄色ナンバープレート用塗料の鉛フリー化継続 - 抜き取りで蛍光X線分析し確認する
		製品開発アセスメントの実施	品質保証部	
7	CSR活動の推進	RoHS物質が製品に含有・流出する事故0件	総務G 製造部	- 毎月10日の一斉清掃に参加 - 市内高校生の受け入れ
		工業団地内一斉清掃参加継続		
		インターンシップの受入れ継続		

※1. 二酸化炭素排出量原単位＝二酸化炭素排出量／製品化量

※2. 廃棄物排出量原単位＝廃棄物排出量／製品化量

※3. 水道水は操業日数・工業水はPL製品化量で換算

※4. 省エネについての2023年度目標値は2019年実績値の20%減、

尚、産廃処理・化学物質・水については2022年度未達の項目については2021年度

実績比1%減の目標2024年度、2025年度、2026年度は前年度実績1%減を目標とする。

※5. 工業団地一斉清掃の参加及び市内高校生のインターンシップ受け入れ。

6.環境活動計画の取組結果とその評価

2023年度実施内容

※2023年度の製品化量は7,711tです。

*1のエネルギー使用量の②はエネルギー使用量の熱量を原油換算した値です。

管理No,	環境目標	活動実施計画内容	目標	実績	結果
1	環境重大事故の撲滅	環境トラブルを想定した訓練実施	2回/年	2回/年	○
		ニオイセンサーによる屋外定期観測	2回/月	2回/月	○
2	省エネルギー対策の推進	脱臭装置更新による、都市ガス使用量の削減 *1 (2019年度ベースとして20%減)	① 641.0kg/t ② 5052tco ¹	① 574.3kg/t ② 4428tco ¹	○ ○
		エネルギー原単位削減 (天井照明LED化・空調機温度設定)	3932/t	2902/t	○
3	産業廃棄物の削減	産業廃棄物処理費用原単位削減 (有機溶剤等特別管理物質の削減)	875 円/t	839 円/t	○
		産業廃棄物処理原単位削減 (プラスチック100%リサイクル化)	24.77kg/t	23.73kg/t	○
4	化学物質の適正管理	濃度センサー誤動作防止点検強化	4回/月	4回/月	○
		化学物質受払管理	1.322/t	1.302/t	○
5	水管理の推進	冬季凍結防止対策 節水活動の呼び掛け・表示	6.0m ³ /日	4.7m ³ /日	○
		使用工業水をクーリングタワーで 冷却し循環使用	2.30m ³ /t	2.09m ³ /t	○
6	製品開発アセスメントの 推進とRoHS物質が製品 に含有・流出する 事故0件	黄色のナンバープレート用塗料の 鉛フリー化継続	0件/年	0件/年	○
		抜き取りで蛍光X線分析し確認する	0件/年	0件/年	○
7	CSR活動の推進	工業団地内一斉清掃参加継続	継続	継続	○
		インターンシップの受入れ継続	規制緩和により 2名受入	諸事情により 見合わせ	×

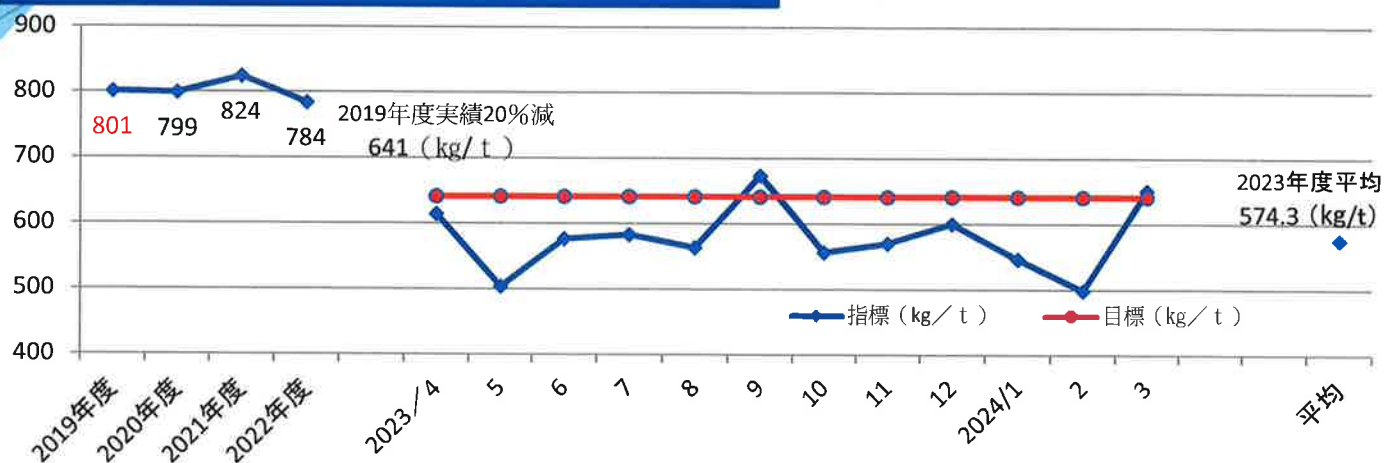
考査

- 環境トラブル及び近隣住民からの苦情はなかった。
- 二酸化炭素排出量削減については、UACJ中長期計画を見据え2019年度ベースから20%減を目標とした
- 廃棄物削減については、。
- 化学物質の管理と削減については、濃度センサーの定期清掃を継続していたので達成した。
- 総排水量削減については、冬季の凍結防止対策で蛇口交換を行ったので効果が出て達成した。
- RoHS物質が含有する流出する事故を防ぐことができた。
- 諸事情により受入を見合わせた

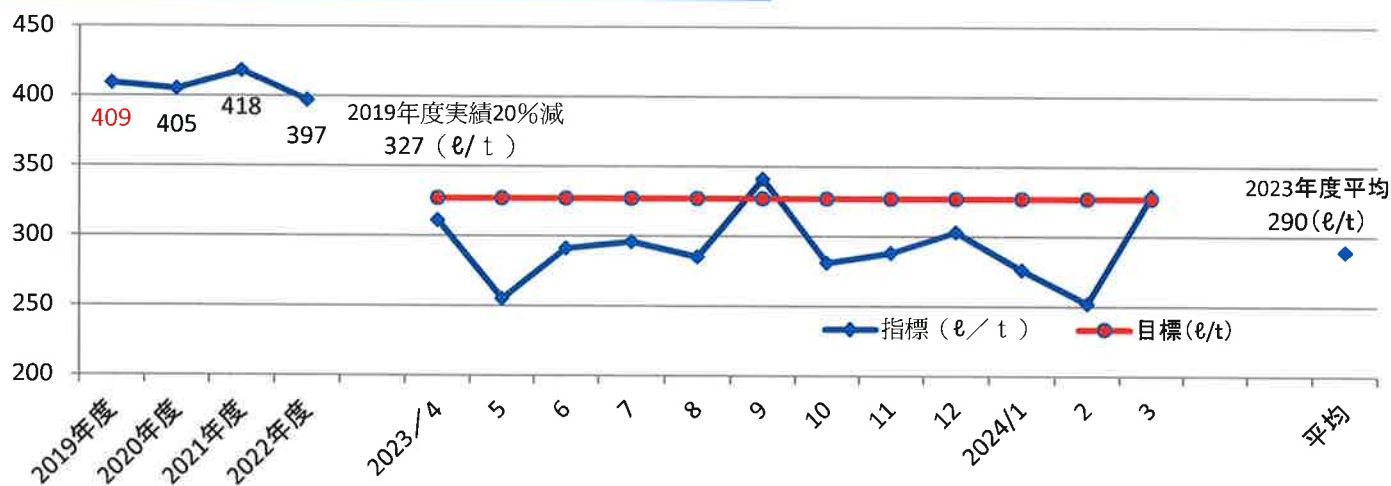
6-1. グラフ

二酸化炭素排出量原単位推移

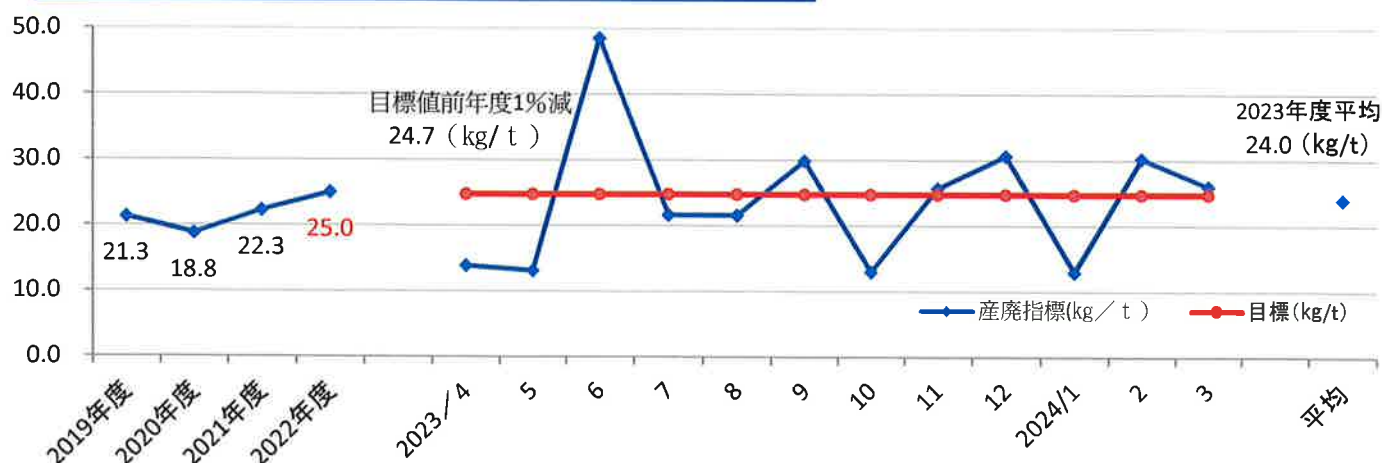
UACJ全社のスコープ1・2・3中長期計画にて
CO₂・エネルギー削減量は2019年度をベース
として20%減目標設定



エネルギー使用量原単位推移



産廃処理量原単位推移



7 次年度取組み内容(2024年度)

2024年度UACJアルミセンター宇都宮カラーアルミ工場 環境管理活動方針

項目	目的
環境重大事故の撲滅	環境重大事故件数“ゼロ”
省エネルギー対策の推進	エネルギー原単位を 2023年度実績比“1%”削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物原単位を 2023年度実績比“1%”削減
化学物質の適正管理	管理化学物質を 2023年度実績比“1%”削減
水管理の推進	水使用に関する管理の推進 2023年度実績比“1%”削減
製品アセスメントの推進と 環境に配慮しない製品の 提供	RoHS物質が製品に 含有・流出事故0件
CSR活動の推進	工業団地内一斉清掃参加継続 インターンシップ受入継続

8.環境関連法規等の遵守状況 並びに違反、訴訟等の有無

主な対象法規制	評価項目	確認	記録・帳票の名称	評価結果	是正の要・否
		確認方法の詳細		問題点・課題等	
大気汚染防止法	排出物質の監視及び測定	監視項目の測定	工場大気	(株)古河電工アドバンストエンジニアリング発行計量証明書にてVOC濃度測定結果及び、煤煙測定結果、異常がない事を確認	否
第17条の5 揮発性有機化合物排出施設 第8条の1 ばい煙排出施設	VOC排出設備設置届出	設置届出書及び受領書	(煤煙・VOC)	(毎年・年2回測定毎確認)	
	新設・変更		工場大気	揮発性有機化合物排出施設設置使用届で確認	
	宇都宮市環境保全課による、臨時採取		(煤煙・VOC) 揮発性有機化合物測定	新設・変更なし 宇都宮市委託測定会社にて分析 異常なしの確認	
水質汚濁防止法	施設の日常管理業務	点検記録	点検記録	日常点検で問題特になし	否
	新設・変更	生活排水経路の色確認・pH測定	工場排水測定	新設・変更なし	
	排水水の監視及び測定			毎月定期分析実施、日本アトモス(株)発行計量証明書にて、異常がない事を確認	
	宇都宮市環境保全課による、臨時採水	生活排水経路の色確認・pH測定	基本7項目測定	クロスチェック実施、日本アトモス(株)発行計量証明書にて、異常がない事を確認	
	宇都宮市上下水道局による、臨時採水	排水汚染度(BOD)測定	汚染度(BOD)測定	クロスチェック実施、日本アトモス(株)発行計量証明書にて、異常がない事を確認	
・騒音規制法	・騒音測定	昼間65dB 朝夕60dB 夜間50dB以下	宇都宮市環境協定	平成理研(株)計量証明書で、騒音・振動・悪臭の測定結果異常がない事を確認	否
・振動規制法	・振動測定	昼間65dB 夜間50dB以下			
・悪臭防止法	・悪臭測定	悪臭防止法第4条基準より1ランク上で設定			
有機溶剤中毒予防規則	有機溶剤	作業環境測定結果報告書(保存30年) 特殊健康診断実施	作業環境測定結果報告書	(株)古河電工アドバンストエンジニアリング発行計量証明書にて作業環境測定結果、異常がない事を確認(毎年・年2回測定毎確認)	否
特定化学物質等障害予防規則	クロム酸及びその塩	作業環境測定結果報告書(保存30年) 特殊健康診断実施	作業環境測定結果報告書	(株)古河電工アドバンストエンジニアリング発行計量証明書にて作業環境測定結果、異常がない事を確認(毎年・年2回測定毎確認)	否
消防法 36条	消火・避難訓練実施	防災避難訓練計画書作成実施	防災避難訓練計画書	防災避難訓練計画書に基づき確認	否
	危険物貯蔵庫場所	危険物管理表示	宇都宮市消防署届出	危険物取扱作業届出確認	
廃棄物処理法	電子マニフェスト管理	JWネット実施	JWネット電子マニフェストシステム	電子マニフェスト履歴にて確認	否
改正省エネルギー法 2022年度改正	エコアシストシステム運用				否

当社の法的要求事項測定結果において、環境関連法規への違反はありません。
 なお、創業以来、関係当局より違反等の指摘は過去48年間ありません。
 会社組織変更のための、各省庁への継承手続き、変更届全て期間内に更新してあります。
 水質汚濁防止法で水質2種資格取得が課題(現在1名)。

工業団地一斉清掃参加

2017年11月10日より毎月10日に敷地外の道路清掃と緑地帯の清掃を実施するようにし、現在も継続中です。



宇都宮カラーアルミ工場



実施日) 2023年4月10日(月)～2024年3月11日(月)

参加延べ人数) 80名

内容) グリーンベルト及び歩道のごみ拾い

9.代表者による全体評価と見直し結果

環境管理システムの適切性・妥当性・有効性評価			
項 目		資料による所見	適切性・妥当性・有効性の評価
2023年度環境目標に対する結果 (パフォーマンス)		環境重大事故の撲滅、 省エネルギー対策の推進、 産業廃棄物の削減、 化学物質の適正管理、 CSR活動の推進については、 目標ほぼ達成。	前年度と比較し品質向上による歩留改善等の影響にて 産業廃棄物の削減は今回目標を達成。 またCO2削減は2023年1月より稼働した新脱臭装置の 起業の追加対策もあり、さらに大幅な削減が実現できている。
2024年度環境活動計画		目標および施策は、2023年度の 活動結果からは正し、対応を計画し、 実現に向け行動していく。	2023年度より取り組んでいるオープン、ボイラー等に関する 省エネ対策を今年度も進める。 また、産業廃棄物の削減については廃プラスチックの圧縮による 処理費用原単位削減を推進する。 その他課題の廃水処理技術継承も実施中。
外部コミュニケーション		工業団地一斉清掃への参加。 インターンシップの受入再開。	2017年度より、工業団地一斉清掃に参加開始、 地域環境に配慮した活動は継続。 また、コロナ規制緩和後の、インターンシップ高校生受入に関しては 2023年度要請がなかった。
		臭気クレームの未然防止。	ここ数年間は、臭気クレームは発生なし。 VOC排出ガス臭い確認(1回/日)の継続、臭いセンサーによる定点観測 (約20か所、1回/月)を継続し、早期の設備対応とクレームの 未然防止を図ってゆく。
変化している 周囲の状況	法規制の変更	環境関連法規制の取りまとめ。	法規制の変更はないが、最新版管理であることを明確にしている。 ファイル保管も整理している。
	製品又は活動等 環境側面の変化	製品開発アセスメントの推進。	新塗料におけるSDS入手を確実に実施し、 環境事故防止に繋げている。
	科学技術の変化	塗装技術。	大きな技術変化はないが、稼働率を上げ、 効率の良い塗装を目指している。
	その他	人員。	塗装能力向上のため、塗装ラインで人員増(+4名)の予定。 安全、品質と同様、環境に関する教育も継続していく。
改善のための提案		行政届出の確実な実施。	台帳を作成しているが、最新版管理であることを明確にするため、 届出の写しを一部ファイル保管、整理している。
内部監査		UACJ本社安全環境部による 環境点検。	環境システム運用のグループ内部監査として、 年1回の現地確認を受けている。 指摘事項のフォロー改善を行いスパイラルアップに努めている。 また、2023年度は省エネ点検も受け多くの省エネ提案をいただいた。
エコアクション21の指摘事項		A判定事項の対応。	是正処置報告書に記録し対策を行いフォローする。
環 境 管 理 シ ス テ ム の 変 更 事 項			
項 目		変 更 内 容 (指 示 事 項)	
環境方針		変更(水管理の推進を追加)。	
目的・目標		2023年度はほぼ目標値を達成出来た。 2024年度は2023年度実績をベースに1%削減を目標とする。	
実施体制の変更		変更なし	
その他のEMSの要素		環境マネジメントシステム認証をISO14001からエコアクション21へ変更。(2017年10月) これに伴う環境活動に変化はない。	
指示事項の処理実施確認		毎月の設備・環境会議で確認	
		評価、見直し実施日:2024年4月1日 工場長 前園 利樹	



Aluminum lightens the world
アルミでかなえる、軽やかな世界

株式会社UACJアルミセンター 宇都宮カラーアルミ工場

© UACJ Corporation All rights reserved.